

月	指導単元	指導内容	配当時数 標準	観点項目	指導目標(ねらい)	具体的評価規準	評価方法	支援方法
4	第1章 正の数と負の数 1 正の数と負の数 1 符号のついた数 2 数の大小 2 加法と減法 1 加法 2 減法 3 加法と減法の混じった式 3 乗法と除法 1 乗法 2 除法 4 いろいろな計算 1 四則 2 正の数、負の数の利用 29時間配当	・既習事項の確認 ・符号の付いた数 ・基準を変えて表す ・正の数、負の数で量を表すこと ・数直線 ・絶対値 ・数の大小 ◎数の大小の活用 ・加法 ☆加法の練習 ・加法の交換法則、結合法則 ◎工夫して計算しよう ・減法 ・加法と減法の混じった計算 ・加法の省略 ☆加法、減法の練習 乘法 ☆乗法の練習 ・乗法の交換法則、結合法則 ・同じ数の積 ・除法 ・小数、分数を含む乗除 ・逆数 ・乗法と除法の混じった計算 ・乗除の混じった計算 ・四則を含む計算 ・分配法則 ・数の集合と四則 ・正の数、負の数の利用 ※章の復習	1	1	・様々な事象を正の数と負の数などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようする態度身に付けている。	・正の数と負の数に关心をもち、その必要性と意味を考えたり、正の数と負の数を用いて、身の回りの様々な事象を表したりしようとしている。 ・正の数と負の数の四則計算に关心をもち、その意味や計算の仕方を考えたり、計算したりしようとしている。 ・正の数と負の数を用いることに関心をもち、様々な事象における変化や状況を表したり処理したりしようとしている。	・定期テスト ・練習課題 ・小テスト ・授業観察 など	・質問教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援) ・東京ベーシックドリルの活用 ・教材の開発
5			1	2	・正の数・負の数などについての基礎的な知識の習得や活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもち筋道を立てて考えることができる。	・数を正の数・負の数にまで拡張することで、最高気温の前日との差などを、正の数・負の数を用いて考えることができる。 ・反対の方向や性質を表す場面で、正の数・負の数を用いて考えることができる。 ・これまでの計算をもとにして、正の数・負の数の計算の方法を考えることができる。 ・数を正の数・負の数にまで拡張することで、計算の可能性が拡がることに気付き、加法と減法を統一的にみることができる。		
6			1	3	・正の数・負の数の四則計算やその表現と意味のよみとり、合理的に操作、処理したりすることができる。	・正の数・負の数を用いて、身の回りのいろいろな事象を表すことができる。 ・正の数・負の数を用いて反対の方向や性質を表すことができる。 ・正の数・負の数を数直線上に表したり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。 ・正の数・負の数の四則計算ができる。 ・加法と減法の混じった式を、正の項や負の項の和として表すことができる。		
7			1	4	・負の数の必要性、正の数と負の数の意味や四則計算の意義を理解している。	・正の数・負の数の意味を、これまでの経験や日常生活の具体的な場面などに結び付けて理解している。 ・符号(+)や自然数、整数の意味を理解している。 ・正の数・負の数の大小関係、不等号や絶対値の意味を理解している。 ・正の数・負の数についても、加法、乗法に関して交換、結合や分配法則が成り立つことを理解している。 ・数を正の数・負の数にまで拡張することによって、加法と減法を統一的にみることができることを理解している。		
8	第2章 文字と式 1 文字と式 1 文字を使った式 2 文字式の表し方 3 いろいろな数量と文字式 4 式の値 2 文字式の計算 1 1次式の加法、減法 2 1次式と数の乗法、除法	・数量を文字で表すこと ・文字式の表し方 ・文字式と数量 ☆文字式の練習 ・式の値 ・項と係数、式を簡単にしてこと ・同類項の整理 ・式をたすこと ・式をひくこと ・文字式と数の乗法 ・文字式と数の除法	1	1	・様々な事象を文字や文字を用いた式などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。	・文字を用いることに関心をもち、その必要性と意味を考えたり、文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったりしようとしている。 ・文字を用いた式の計算に关心をもち、その計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ・文字を用いた式を活用することに关心をもち、数量の関係や法則などを表したり、その意味を読み取ったり、式の値を求めたりしようとしている。	・定期テスト ・練習課題 ・小テスト ・授業観察 など	・質問教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援) ・東京ベーシックドリルの活用
9			1	2	・文字や文字を用いた式などについての基礎的な知識の習得や活用を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもち筋道を立てて考えることができる。	・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、一般的に考えることができる。 ・ $a+b$ 、 ab など、文字を用いた式は、それぞれ		

9	22時間配当	☆章の復習 ※発展課題	1		方法を理解している。 ・角の二等分線などの「作図」の方法を理解している。 ・円の半径と接線との関係、弧や弦の意味を理解している。			
10	第6章 空間図形		1	1	・様々な事象を空間図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いたしたりするなど、数学的に考え方表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けてい る。	・空間における直線や平面に関心をもち、それらの位置関係について考えようとしている。 ・空間図形の構成に関心をもち、直線や平面図形の運動によって、どの空間図形が構成されるかを考えようとしている。 ・見取図、展開図、投影図に関心をもち、それらを用いて空間図形を表したり、読み取ったりしようとしている。 ・扇形の弧の長さと面積や、柱体、錐体、球の表面積と体積に関心をもち、その求め方を考えようとしている。	・定期テスト ・練習課題 ・小テスト ・授業観察 など	・質問教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
11	1 空間図形 1 いろいろな立体	・いろいろな立体 ◎正多面体を作ろう ・角柱と角錐 ・円柱と円錐 ・直線の位置関係 ☆直線の位置関係の確認 ・距離 ・面を動かしてできる立体 ・線を動かしてできる立体 ・立体の投影図 ◎なぞの立体の正体	1	2	・空間図形についての基礎的な知識の習得や活用を通して、直線や平面図形の運動によって構成されているものととらえたりするなど、図形に対する直観的な見方や考え方を身に付け、筋道を立てて考えることができる。	・空間における直線と直線、直線と平面、平面と平面の位置関係について、見通しをもち、観察、操作や実験を通して、考えることができる。 ・柱体・錐体などの空間図形が直線や平面図形の運動によって構成されているとみることができる。 ・空間図形の性質を見取図や展開図を目的に応じて用いて調べ、空間図形を平面図形に帰着させて考えることができる。 ・おうぎ形の弧の長さと面積の求め方を、中心角の大きさとの関係に注目して考えることができる。 ・観察、操作や実験を通して、柱体・錐体の表面積の求め方を考えることができる。	・東京ベーシックドリルの活用 ・教材の開発	
12	2 空間ににおける平面と直線 3 立体のいろいろな見方	・柱体の表面積 ・錐体の表面積 ・角錐、円錐の表面積 ・柱体の体積 ・錐体の体積 ・円錐の体積 ・球の表面積 ・球の体積 ☆計量問題の練習 ※いろいろな立体の表面積、体積	1	3	・空間図形などの図形を見取図、展開図によって適切に表現したり、空間図形を直線や平面図形の運動によってとらえ、操作や実験を適切に行い、基本的な図形の計量を行ったりできる。	・立体模型などを用いて、空間における直線や平面の位置関係には、どんな場合があるか説明することができる。 ・直線や平面図形の運動による柱体・錐体などの空間図形の構成の仕方を、言葉や図などを用いて説明することができる。 ・見取図や展開図を用いて空間図形を表したり、見取図や展開図から空間図形やその性質をよみとったりすることができる。 ・おうぎ形の弧の長さと面積や柱体・錐体の表面積と体積を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。		
13	2 立体の表面積と体積 1 立体の表面積	・柱体の表面積 ・錐体の表面積 ・角錐、円錐の表面積	1	4	・空間における直線や平面の位置関係及び基本的な図形の性質や図形の計量の仕方などを理解している。	・空間における直線や平面の位置関係を分類することができる。 ・柱体・錐体などの空間図形は、直線や平面図形の運動によって、立体が構成されることを理解している。 ・回転体の意味を理解している。 ・見取図と展開図の意味や役割を理解している。 ・円周率を記号「 π 」と表すことの意味を理解している。 ・柱体・錐体の表面積(底面積、側面積)と体積の意味やその求め方を理解している。		
14	第7章 資料の整理とその活用		1	1	・目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして度数分布表やヒストグラムを作ったり代表値を求めたりすることに関心をもつとともにヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえて説明しようとする態度を身に付けている。	・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料を整理しようとしている。 ・問題を解決するため、代表値などを求めようとしている。 ・課題を解決するために、ヒストグラムや代表値を用いて、整理しようとしている。	・定期テスト ・練習課題 ・小テスト ・授業観察 など	・質問教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
15	1 資料の整理とその活用 1 度数の分布	・度数分布表を作る ・ヒストグラムを作る ・度数折れ線を作る ◎資料を比べてみよう① ・相対度数	1	2	・目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いるなどして度数分布表やヒストグラムを	・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料の傾向		
16	2 資料の比較 3 資料の代表値	・代表値、平均値 ・階級と階級値	1					

